

「新たな部活動の在り方に関する報告書」

令和6年1月10日

海老名市 新たな部活動の在り方検討委員会

「新たな部活動の在り方に関する報告書」

目 次

はじめに	1
1 新たな部活動の在り方検討委員会について	
1-1. 検討委員会の目的	2
1-2. 検討委員会の構成	2
1-3. 検討の経過	2
2 海老名市部活動の現状と課題	
2-1. 海老名市部活動の現状	4
2-2. 部活動に関するアンケート調査の結果.....	5
2-3. 部活動顧問への聞き取り調査の結果.....	9
2-4. 海老名市部活動における課題.....	10
3 新たな部活動の在り方に関する提言	
3-1. 「新たな部活動」のめざす姿.....	12
3-2. 新たな部活動の在り方に関する7つの提言.....	13
4 移行期間・周知におけるスケジュール	
4-1. 移行期間におけるスケジュール.....	14
4-2. 生徒・保護者・関係団体等への周知.....	15
参考資料	別添

はじめに

今日も市内6校の中学校では、授業を終え、子どもたちが、仲間たちとともに、夢中になって、部活動に取り組んでいることでしょう。

また、学校以外の場所で、熱心に活動していることでしょう。

子どもたちの日常、学校生活において、部活動をはじめとする放課後の活動は、大きな意味と意義をもっていて、子どもたちひとりひとりの成長の糧となっているところです。

私たち大人の使命は、子どもたちの学びとそのための活動を守ること、保障することです。

海老名市では、市独自で、平成29年度に「部活動検討委員会」を設置し、「部活動のねらい」「活動日数と活動時間」「外部指導者の活用」「医療との連携」「保護者の部活動支援」について、子どもたちや保護者、教職員の思いや意見を聞き、報告書にまとめ、海老名市教育委員会として、「海老名市部活動方針」を策定して部活動を進めてきました。

そのような中、令和4年12月に、スポーツ庁・文化庁から国のガイドラインとして、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示されました。それを受けて、神奈川県においても、今年度10月に「公立中学校における部活動の地域移行に係る神奈川県の方針」が策定されたところです。

そして、ガイドラインで焦点化されている「部活動の地域移行」については、それぞれの市町村の状況により、進められるべきであることから、海老名市としては、今年度、「新たな部活動の在り方検討委員会」を設置して、今後の海老名市の部活動の在り方について、子どもたちや保護者、教職員へのアンケートをもとに、検討・協議を重ねてきました。

その成果として、ここに、委員のみなさまのご尽力により「新たな部活動の在り方に関する報告書」をまとめていただきました。

こころより感謝申し上げます。

今後は、報告書に示された、新たな部活動の在り方検討委員会からの「新たな部活動の在り方に関する提言」を受けて、海老名市教育委員会として、地域移行等に係る部活動の方針を定めたいと考えます。

しかしながら、子どもたちの活動を支えるためには、保護者、学校、地域、行政の連携が何よりも必要となりますので、子どもたちのために、みんなで力を合わせていきましょう。よろしくお願いします。

令和6年1月

海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康

1

新たな部活動の在り方検討委員会について

1-1. 検討委員会の目的

海老名市立中学校における部活動の在り方及び段階的な地域移行について検討協議し、海老名市の方針を定めるための報告書を作成する。

1-2. 検討委員会の構成

本検討委員会の構成員は次の12名である。

実行委員長	海老名市教育担当理事	小宮 洋子
副委員長	海老名市立海西中学校長	遠藤 一義
委員	海老名市スポーツ協会理事長	深澤 宏
	海老名市立杉久保小学校長	坂野 千幸
	海老名市立有馬中学校教頭	山口 篤
	海老名市立大谷中学校教務担当教諭	竹島 和也
	海老名市立柏ヶ谷中学校総括教諭	阿部 友哉
	海老名市立海老名中学校総括教諭	上高原拓也
	海老名市立有鹿小学校保護者	笠折麻利江
	海老名市立有馬中学校保護者	尾上 律子
	海老名市立今泉中学校保護者	大西 竜彦
	海老名市文化スポーツ課長	宮澤 健司

また、県教育委員会より担当指導主事を招聘し、助言をいただいた。

アドバイザー 神奈川県教育委員会指導部保健体育課指導主事
藤木 裕史

1-3. 検討の経過

本検討委員会は令和5年5月10日に発足し、計7回にわたって次の内容について協議を行った。

【第1回会議】令和5年5月10日（水）15時00分～17時00分

えびなこどもセンター201会議室

《説明》○検討委員会について（ねらい、スケジュール）

○国の動き及びガイドライン等について

○海老名市部活動の現状と課題について

《協議》○部活動に関する自由協議

- 【第2回会議】令和5年6月21日（水）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター202 会議室
- 《説明》○部活動に係る全国的な状況
○地域クラブ活動への移行のイメージ
○先進市の取り組み
- 《協議》○地域連携・地域クラブ活動のメリットとデメリット
○生徒・保護者・教職員アンケートについて
- 【第3回会議】令和5年7月10日（月）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター201 会議室
- 《説明》○地域クラブ活動に係る国のガイドライン
- 《協議》○新たな地域クラブ活動の在り方について
○地域連携・地域クラブ活動に係る協議のまとめ
○生徒・保護者アンケートについて
- 【第4回会議】令和5年10月2日（月）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター301 会議室
- 《説明》○生徒・保護者アンケートの結果
- 《協議》○えびな型地域部活動について
- 【第5回会議】令和5年11月14日（火）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター201 会議室
- 《協議》○報告書の概要、方針策定までのスケジュールについて
○報告書における「提言」について
○小学校高学年児童・保護者へのアンケートについて
○各部活動（専門部）への聞き取りについて
- 【第6回会議】令和6年1月10日（水）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター201 会議室
- 《説明》○小学校高学年児童・保護者アンケートの結果
○部活動地域移行に係る県のガイドライン
- 《協議》○「新たな部活動の在り方に関する報告書」について
- 【第7回会議（予定）】令和6年2月19日（月）15時00分～17時00分
えびなこどもセンター301 会議室
- 《説明》○新たな部活動の在り方に関する方針
- 《協議》○今後のえびな型地域部活動について
○令和6年度の取り組みについて

2 海老名市部活動の現状と課題

2-1. 海老名市部活動の現状

令和5年度の海老名市立中学校の部活動に係る状況は次のとおりである。

○海老名市立中学校数（令和5年度）

6校

○海老名市立中学校生徒数（令和5年6月現在）

3,368人

○部活動総数（令和5年度）

99部活

内訳：運動部活動 67

文化部活動 32

○入部生徒数（令和5年6月現在）

2,747人

内訳：運動部活動 1,903人

文化部活動 844人

※入部生徒の割合 81.5%

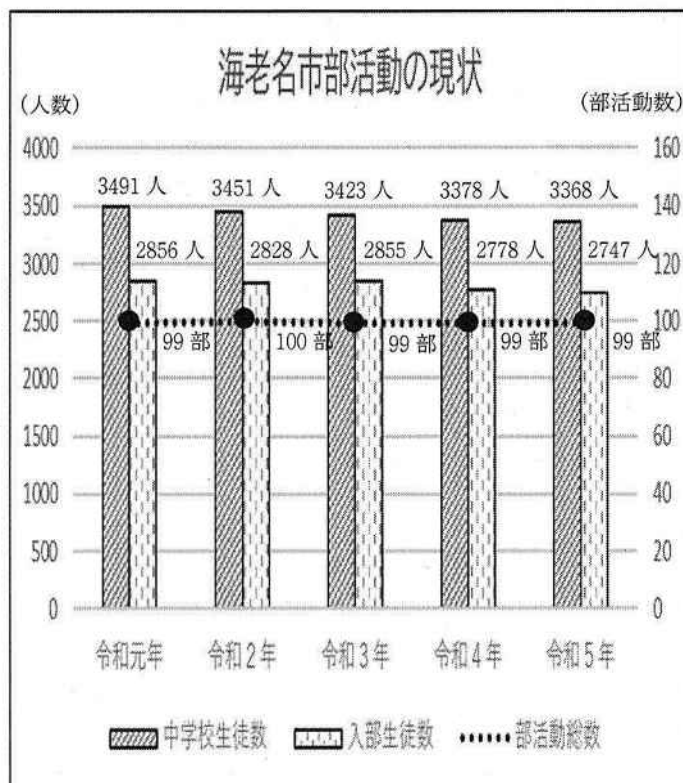
○顧問の教員数（令和5年6月現在）

158人

内訳：運動部活動 106人

文化部活動 52人

※顧問の割合 83.2%



○部活動指導員数（令和5年12月現在）

29人

内訳：運動部活動 19人

文化部活動 10人

※部活動指導員がいる部活動の割合 26.3%

○部活動支援員延べ人数（令和5年12月現在）

47人

内訳：運動部活動 30人

文化部活動 17人

※部活動支援員がいる部活動の割合 34.3%

2-2. 部活動に関するアンケート調査の結果

新たな部活動の在り方検討委員会では部活動に対する児童生徒、保護者、教職員の考えを把握し、今後の部活動の在り方を検討するために次の5つのアンケート調査を行った。

(1) 中学校生徒に対する調査

《調査実施日》 令和5年7月11日～7月20日

《調査対象》 市立中学校1～3学年全生徒 3,367名

《回答率》 90.1% (回答数3,034)

(2) 中学校保護者に対する調査

《調査実施日》 令和5年7月14日～8月4日

《調査対象》 市立中学校1～3学年保護者(メール登録者) 3,819名

《回答率》 17.0% (回答数649)

(3) 中学校教職員に対する調査

《調査実施日》 令和5年8月28日～9月20日

《調査対象》 市立中学校教諭(非常勤講師を除く) 206名

《回答率》 68.4% (回答数141)

(4) 小学校児童に対する調査

《調査実施日》 令和5年11月20日～12月11日

《調査対象》 市立小学校5・6学年全児童 2,321名

《回答率》 78.0% (回答数1,810)

(5) 小学校保護者に対する調査

《調査実施日》 令和5年11月20日～12月8日

《調査対象》 市立小学校5・6学年保護者(メール登録者) 3,254名

《回答率》 31.3% (回答数1,020)

これらの調査については多くの質問項目を同じものとする事で、立場による考えの相違点等を確認するだけでなく、部活動の地域移行によりどのような変化が今後起こり得るのかを周知し、それに対する総合的な考えを問うこととした。

調査結果の主なものは次のとおりである。(詳細は別添資料を参照)

○部活動に入った理由

	理 由	回 答
中学校生徒の回答	1 一番入りたかった部活動だったから	57.4%
	2 やってみたい活動内容だったから	24.4%
	3 友人と一緒に部活動だったから	8.9%
	4 親がすすめた部活動だったから	6.4%

○部活動に入っていない理由

	理 由	回 答
中学校生徒の回答	1 やりたい部活動がないから	8.2%
	2 クラブチーム等に入っているから	3.3%
	3 他にやりたい活動があるから	3.1%
	4 親が入らない方がよいと言ったから	2.3%

○部活動や習い事などに望むこと (複数回答可)

	望むこと	回答	望むこと	回答
中学校生徒の回答	1 楽しく活動する	79.0%	3 体力をつける	54.1%
	2 技術を向上させる	72.3%	4 大会等で勝つ	53.3%
小学校児童の回答	1 楽しく活動する	68.7%	3 体力をつける	41.5%
	2 技術を向上させる	60.1%	4 友人を増やす	37.9%
中学校保護者の回答	1 楽しく活動する	90.2%	3 興味の幅を広げる	68.3%
	2 友人を増やす	71.2%	4 精神力をつける	66.1%
小学校保護者の回答	1 楽しく活動する	84.7%	3 友人を増やす	71.3%
	2 興味の幅を広げる	71.5%	4 精神力をつける	66.2%

○部活動や習い事などの指導者に望むこと (複数回答可)

	望むこと	回答	望むこと	回答
中学校生徒の回答	1 楽しい指導	72.7%	3 公平な指導	64.5%
	2 技術を向上させる	71.7%	4 優しい指導	51.1%
小学校児童の回答	1 楽しい指導	77.1%	3 優しい指導	59.2%
	2 技術を向上させる	63.2%	4 公平な指導	55.9%
中学校保護者の回答	1 人間性を高める	69.8%	3 楽しい指導	67.8%
	2 公平な指導	68.1%	4 技術を向上させる	56.2%
小学校保護者の回答	1 楽しい指導	73.7%	3 人間性を高める	69.8%
	2 公平な指導	72.5%	4 技術を向上させる	54.6%

○地域移行が進み、入部できる部活動の数が増えることについてどう思うか

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
中学校生徒の回答	44.6%	46.0%	6.9%	2.5%
小学校児童の回答	56.9%	38.9%	2.9%	1.3%
中学校保護者の回答	47.9%	45.9%	5.4%	0.8%
小学校保護者の回答	52.9%	43.1%	3.3%	0.6%
中学校教職員の回答	19.9%	51.1%	19.1%	9.9%

○中学校の教員以外の方が部活動に関わることについてどう思うか

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
中学校生徒の回答	26.9%	49.2%	18.6%	5.3%
小学校児童の回答	28.2%	57.5%	11.4%	2.9%
中学校保護者の回答	31.3%	57.9%	9.4%	1.4%
小学校保護者の回答	39.8%	52.9%	6.3%	1.0%
中学校教職員の回答	17.0%	50.4%	22.7%	9.9%

○複数の中学校で合同チームを作り、活動をしたり大会等に参加したりする部活動ができることについてどう思うか

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
中学校生徒の回答	25.3%	42.1%	22.0%	10.5%
小学校児童の回答	33.9%	45.9%	14.3%	6.0%
中学校保護者の回答	21.3%	61.5%	14.9%	2.3%
小学校保護者の回答	28.0%	60.3%	10.4%	1.3%
中学校教職員の回答	17.0%	63.8%	14.9%	4.3%

○学校以外の施設で活動する部活動ができることについてどう思うか

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
中学校生徒の回答	32.0%	47.0%	16.2%	4.8%
小学校児童の回答	33.5%	51.2%	11.5%	3.7%
中学校保護者の回答	14.3%	57.3%	24.7%	3.7%
小学校保護者の回答	25.7%	57.0%	14.3%	3.0%
中学校教職員の回答	23.4%	54.6%	17.0%	5.0%

○今後、今の部活動の形が変わっていくことについて総合的にどう思うか

	とてもよい	よい	あまりよくない	よくない
中学校生徒の回答	17.7%	54.3%	21.7%	6.4%
小学校児童の回答	26.2%	56.4%	13.6%	3.8%
中学校保護者の回答	23.3%	60.2%	14.5%	2.0%
小学校保護者の回答	29.0%	62.5%	6.9%	1.7%
中学校教職員の回答	17.0%	56.7%	17.7%	8.5%

また、中学校教職員への調査によると教員が部活動顧問を担うことに対する負担感等については次のとおりである。

○現在、部活動の顧問をしているか

状 況	回 答
運動部の顧問をしている	55.3%
文化部の顧問をしている	20.6%
複数の部活動の顧問をしている	2.1%
大会引率のみの部活動顧問(*)をしている	5.0%
顧問をしていない	17.0%

*海老名市立中学校では中学校体育連盟登録種目について、学校に部活動がなくても個人的に参加したい旨の申し出があった場合に、教員の引率により大会に参加できる体制を整えている。

○自分の希望に沿った部活動の顧問をしているか

状 況	回 答
希望どおりの部活動の顧問をしている	48.2%
希望していない部活動の顧問をしている	29.1%
顧問をしていない（大会引率のみの顧問を含む）	22.7%

○部活動の顧問をすることに負担を感じているか

状 況	回 答
負担を感じている	34.8%
少し負担を感じている	34.8%
あまり負担を感じていない	22.0%
負担を感じていない	8.5%

【負担の内訳（複数回答可）】

休日の自分の時間が確保できない（79.6%）
 授業準備の時間が確保できない（66.3%）
 校務分掌などの時間が確保できない（43.9%）
 部活動の予定表作成や予算管理（41.8%）
 部活動の保護者対応（41.8%）
 部活動内の生徒指導（35.7%）
 中学校体育連盟などの役員や役割（33.7%）

○今の部活動制度が続いた場合、部活動の顧問を引き受けたいと思うか

状 況	回 答
どのような部活動でも積極的に引き受けたい	3.5%
自分の希望に沿った部活動であれば引き受けたい	43.3%
できれば引き受けたくない	27.0%
引き受けたくない	26.2%

○兼職兼業の制度(*)が確立された場合、顧問として部活動に関わりたいか

状 況	回 答
平日・休日ともに指導する顧問を引き受けてもよい	17.7%
平日のみ指導する顧問であれば引き受けてもよい	10.6%
兼職兼業の条件次第では顧問を引き受けてもよい	27.7%
顧問は引き受けたくない	38.3%

*部活動顧問を1つの職として、教員の職と兼ねることを認めるという制度。

2-3. 部活動顧問への聞き取り調査の結果

さらに、新たな部活動の在り方検討委員会では、部活動における状況は活動の種目や種類によって特徴があると考え、代表顧問に聞き取りを行うことでそれぞれの部活動の現状や課題を把握することとした。

◇部活動代表顧問に対する聞き取り調査

《調査実施日》 令和5年11月30日～12月22日

《調査対象》 全運動部と主な文化部（代表顧問への聞き取り）

《調査内容》 部員数や顧問等の現状、合同練習会などの実施状況
地域移行に向かうための課題や顧問たちの考え

調査結果の主なものは次のとおりである。

※設置校数は男女いずれかの場合を含む。

※部員数は6月、部活動顧問と部活動指導員・支援員の数は12月の人数とする。

※「チーム編成」の質問項目における△は、一部の学校でチームを組めない状況または活動を成立させることが難しい状況をさす。

	設置校数	市内の全部員数	チームが組めるか	教員顧問数	部活動指導員数	部活動支援員数	実施状況 市内合同練習等の	その他
サッカー	6	187	○	14	1	5	なし	
野球	6	160	○	11	3	2	定期開催	
ソフトボール	3	40	△	4	2	0	2校で実施	
バレーボール	5	170	○	9	5	0	年1回実施	
バスケットボール	6	284	○	16	4	8	年3回実施	
バドミントン	6	318	○	16	3	8	なし	
ソフトテニス	6	361	○	18	0	2	年3～4回実施	
卓球	2	88	○	3	1	1	なし	
剣道	4	136	○	7	0	2	なし	
陸上	3	122	○	6	0	1	年1回実施	
ラグビー	1	15	×	2	0	2	私立中学と実施	他校生受入
吹奏楽	5	220	△	12	7	11	演奏会前等に実施	
合唱	4	70	○	7	1	4	2校で3回実施	
美術・イラスト系	6	211	○	14	1	0	なし	

2-4. 海老名市立中学校部活動における課題

調査からわかったこととして、海老名市においては他地区に見られるような部員数減少による活動への大きな支障は多くないものの、一部の部活動においてはチームを編成することや充実した活動を保障することが難しい現状が見られ、この状況は今後しばらく継続されるものと考えられる。

しかし、教職員の部活動顧問を引き受けることに対する負担感や生徒たちの興味関心・活動が多様化してきている現状から、これまでの部活動の形態を継続することは難しく、このままでは、放課後・休日における生徒たちの充実した活動を保障することができなくなる恐れがある。

よって、海老名市中学生の主体的な活動の場である部活動を継続していくための課題を次のように考え、その解決方法を協議することとした。

(1) 部活動存続のための指導者の確保

調査からもわかるとおり教員の部活動顧問を担うことへの負担感は大きく、約7割が何らかの負担を感じており、5割以上はこのままの部活動制度では顧問は引き受けたくないと思っている現状がある。

その陰には、本来の教員としての業務が平日だけでは終わらず、休日にも及んでいるという、教員の働き方としての課題があることは否めないが、いずれにしても「中学校教員は全員顧問となるのが当たり前」という時代は終わりが見えており、海老名市においても今後、指導者が急激に減ることによって多くの部活動が存続できなくなるということが考えられる。

よって、生徒たちの活動の充実を保障するための指導者の確保が最も大きな課題であり、そのための制度等を整えることが急務である。

(2) 教員が指導者を続けるための制度等改正

前述したように教員の部活動顧問を担うことへの負担感は大きいですが、同時に、生徒とともに苦楽をともにし、その成長を支えるという指導者としての喜びは大変大きいことから、今後も指導者として部活動に関わりたいと考えている教員も一定数いることが調査結果からわかった。

また、負担の内訳として「予定表作成や予算管理」「中体連の役員や大会運営」「保護者対応」等があげられており、それらの負担を軽減することで、生徒と関わる時間が増え、より充実した活動となることが期待できる。

さらに、部活動顧問を1つの職と考え、教員職と兼ねることができる兼職兼業の制度を確立させることも、今後の部活動存続に大きな影響を与えると考えられる。

(3) 生徒の興味関心・活動の多様化への対応

部活動の顧問を担うことは教員としての本来の業務ではないことから、従来は「その学校にいる教員が指導できる部活動を設置する」という体制で部活動は継続されてきた。

しかし近年は、生徒の3年間の活動を保障することへの配慮から、部活動数や種類を変更することが大変難しく、生徒たちから部活動新設の希望があったとしてもそれに応えることは厳しいという状況がある。

その一方で、生徒たちの興味関心や活動は年々多様化し、「希望する部活動がないから」という理由で指定校変更をする生徒の数も年々増加しており、対応が望まれるところである。

(4) 部員数減少により活動に支障が出ている部活動への対応

児童生徒数の減少は見られないとしても、様々な要因から部員数が減りチームを編成することができなかつたり日常の活動に支障をきたしたりしている部活動が一部あることが調査結果から明らかとなった。

現状としては、学校内の他の部活動や、他校の同じ部活動から一時的に部員を補充する対応をとっており、大会に参加できないことはないものの、海老名市部活動方針に定めるねらい(*)を考えれば、早急な対応が必要と考えられる。

* 「海老名市部活動のねらい」海老名市部活動方針（平成30年1月策定）より

部活動は、生徒ひとりひとりの自主的、自発的な参加により教育課程によらないスポーツ・文化・科学等の教育活動として、次のねらいを達成するために行うものである。

◇自分の目標や課題に向かって粘り強く努力し、それを克服して達成感や成就感を味わう中で、自主的に自分自身を高めよりよくしようとする力を育てる。

◇同じ目標に向かって、仲間とともに競い、励まし、支えあって活動する中で、つながりを広げ、絆を深めることの喜びを味わい、多くの人と進んでかかわり自分を発揮する力を育てる。

◇生涯にわたって、心と体の健康に関心をもち、主体的にさまざまな活動に取り組み、自分や自分たちの生活をより楽しく豊かなものにしようとする力を育てる。

3 新たな部活動の在り方に関する提言

海老名市立中学校の部活動については、平成 30 年 1 月に海老名市教育委員会が定めた「部活動のねらい」にそって、学校と市教育委員会が協議を重ねながら取組を進めてきた経緯があり、部活動の意義や生徒への影響力は大きく、その教育効果は計り知れないものがあると強く認識しているところである。

国の地域クラブ活動に係るガイドライン（令和 4 年 12 月）と照らし合わせると、海老名市は今後しばらく生徒数の維持が見込まれることから、ある程度の部活動数と一部活動あたりの生徒数を確保することは可能と考えられ、地域移行においてもそのことが直接的な要因とはならないと言える。

しかし、多様化してきている生徒の活動を保障する観点や、教員の働き方改革を進める観点、さらに、これからの時代を生き抜く子どもたちには可能な限り多くの大人が関わり人格形成の幅を広げることが望ましいという観点等から、現在の部活動の在り方を見直し「地域クラブ活動」へ移行していく意義は大きい。

このようなことから、新たな部活動の在り方検討委員会では、海老名市部活動のめざす姿を次のように考えた上で、7 点について提言し、海老名市部活動の改革を求める。

3-1. 「新たな部活動」のめざす姿

本検討委員会では、持続可能な部活動、これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な力を育てる部活動、という観点から「新たな部活動」のめざす姿を次のように考える。

【海老名市の「新たな部活動」のめざす姿】

- ◇「海老名市部活動のねらい」達成のため、学校・地域・保護者が協働し、生徒の充実した活動を保障する。
- ◇これまでの「学校単位の部活動」から、「市全体の部活動」という考えに移行することで、生徒の継続的かつ発展的な活動の保障、多様化する興味関心への対応、教員の働き方改革を進める。
- ◇これからの時代を生き抜く子どもたちには可能な限り多くの大人が関わり人格形成の幅を広げることが望ましいという観点から、教員のみならず地域の人材やスポーツ・文化芸術関係者等、多くの指導者・支援者が部活動に関わり支えていく体制を構築する。

3-2. 新たな部活動の在り方に関する7つの提言

「新たな部活動」のめざす姿を踏まえ、それを実現するための方策について次の7点について提言を行う。

【新たな部活動の在り方に関する7つの提言】

- ① 国の求める「地域クラブ活動」を目指した地域移行を最終目標としながらも、そこに至るまでの課題の解決と円滑な移行を考えると、海老名市としては「地域連携」から取り組み、生徒たちの主体的な活動を保障するための、持続可能で発展的な「えびな型地域部活動」の形作りを段階的に進めていただきたい。
- ② 今後、部活動顧問となる教員の減少により部活動数が半減してしまうことが考えられることから、まずは、部活動数の維持に努めていただきたい。そのために、希望する教員が部活動顧問を継続していくための環境整備を進めるとともに、教員以外でも顧問となることができる部活動指導員を適宜配置していただきたい。
- ③ 「休日等の合同練習・合同活動」を積極的に取り入れ、より多くの仲間や指導者と活動をすることにより、生徒の活動充実をめざすとともに教員の負担軽減を図っていただきたい。また、合同練習・合同活動に部活動指導員や部活動支援員が関わることは地域連携・地域移行を進める第一歩となることから、市としてそれらの活動を支援し、推進していただきたい。
- ④ 児童生徒・保護者・教員アンケートで最も期待値の大きい「生徒が選択できる部活動数の拡大」を実現させるため、現存する部活動数を維持しつつ、「隣接中学校型の合同部活動」や「拠点校型の合同部活動」を設置する等、柔軟な部活動形態を導入していただきたい。

- ⑤ 多様な部活動、柔軟な部活動形態に対応するために、中学校施設のみならず、小学校を含む市の施設を可能な範囲で部活動が活用できるようにし、活動の充実を図るとともに生徒の移動等による負担の軽減を図っていただきたい。
- ⑥ 部活動としての課題やニーズは各校・各部活動により様々であることから、個々の部活動に寄り添った丁寧な対応に努めていただきたい。また、生徒や保護者への説明を丁寧に行い、共に部活動改革を進めていただきたい。
- ⑦ これらの新たな「えびな型地域部活動」の管理運営を学校が行うことは難しいと判断されるため、持続可能で安全安心な部活動の実現のためには、海老名市全体の部活動を管理運営する組織が必要である。よって、市全体の部活動設置状況の管理、部活動指導員等の配置や管理・研修、活動計画・活動場所の調整と周知、活動に係る予算管理等の機能を果たす事務局としての組織を段階的に立ち上げていただきたい。

4 移行期間・周知におけるスケジュール

4-1. 移行期間におけるスケジュール

「えびな型地域部活動」への移行は、これまでの中学校の在り方を根本から変える大きな改革となると言っても過言ではないことから、慎重に進めることが望ましいものの、これまでに述べてきた数々の課題を考えると急ぎ体制を整える必要を強く感じる。

よって、大枠としての海老名市部活動の移行期間を3年間と定め、計画的かつ継続的に改革を進めることを提案する。

【移行期間（3年間）のスケジュール】

□令和6年度

- 部活動指導員が第一顧問となる部活動の拡大（課題解決と研究）
- 合同練習等の推進（支援と研究）
- 令和7年度合同部活動の準備（制度確立）
 - ※必要に応じて年度途中の設置もあり
- 令和8年度部活動事務局設置にむけた研究（事務局の在り方研究）

□令和7年度

- 合同部活動の開始（拡大にむけたさらなる研究）
- 令和8年度部活動事務局設置準備（制度等の確立、予算編成）

□令和8年度

- 新たな部活動事務局による海老名市部活動運営の開始

4-2. 新たな部活動の在り方に関する方針の周知方法

教育委員会で策定された新たな部活動の在り方に関する方針については、次のように周知を図る。

◇教職員への周知

策定後、各小中学校において職員会議で学校長が周知する。

◇児童生徒への周知

市教委がリーフレットを作成し、3月下旬に学校をとおして配付する。
（中学校1・2年生、小学校5・6年生の全児童生徒）

◇保護者への周知

市教委がリーフレットを作成し、3月下旬にメールにて配信する。
（中学校1・2年生、小学校5・6年生の全保護者）

◇部活動指導員・部活動支援員への周知

3月下旬に市教委から郵送にて周知文書を送付する。

◇スポーツ協会等への周知

3月下旬に市教委から文化スポーツ課を通して周知文書を送付する。

【問合せ先】

海老名市教育委員会教育支援課